



Walk with Children めぐる

大人 子供

せいび

205号
2024年10月

戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。

教皇ヨハネ・パウロ2世の『平和アピール』より

校長 シスター 小島 理恵

いよいよ今年度の前期が終了します。気候が不安定で、猛暑日や雨天が続いたりした今期、子ども達はたいへんな思いをしながらも、頑張って登校してきました。10月下旬、急に気温が下がりましたが、このあと11月もまだ暑さが残るようです。しかしながら、こうして無事に前期終了を迎えることができたことを感謝したいと思います。私たちの日常では想像もできませんが、他の国々では終わりの見えない戦争が数えきれないほどの命を奪い、また今もお命の危機にさらされ、特に子ども達がおびえながら生活している現状があります。この現実を私たちは忘れてはならないと思います。

1981年2月、当時の教皇ヨハネ・パウロ2世が来日し広島を訪れた際、平和のメッセージを日本語で語られました。「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。」と。「平和」を望まない人は誰一人いません。ですから、「真の平和」が一日も早くこの地球上に実現するよう、心からの祈りを捧げたいと思います。

前期の7か月間、本校の教育にご理解とご協力をくださいました保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。後期もどうぞ、よろしくお願ひ致します。

コネッショナー
Conessione ~つながり~

「Conessione」とは、イタリア語で「つながり」を意味する言葉です。

ここではキリスト教とのつながりを大切にするための豆知識を紹介していきます。



大切なのは、どれだけ多くをほどこしたかではなく、
それをするのに、どれだけ多くの愛をこめたかです。

マザーテレサの言葉

教頭 細谷 勇太

先日、6年生が校内でのボランティア活動として、全校に献品をよびかけ、集めていました。いつもより早く登校した6年生に話しかけてみると、「起きるのが大変でした。でも楽しいので!」という答えが返ってきました。何が楽しいのかと尋ねると、「誰かの役に立てるっていうか、献品を届けて、喜んでくれると思ったらうれしいので。」と、うれしい言葉を聞くことができました。とても心が温かくなりました。

マザーテレサの言葉のように、心をこめるには、愛をこめるにはどうすればよいでしょう。それは、先ほどの6年生の言葉が物語っていると思います。愛をこめるには、愛を伝えるには相手が必要です。単純に作業と思ってやるよりも、その向こう側にいる人を想像しながら行うことが、「愛をこめる」ことだと思います。

ロザリオの月、児童達はマリア様にささげるお祈りを続けてきました。愛をこめて、心をこめて楽しく行ったお祈りの積み重ねは、たとえほんの少しだとしても、マリア様が、神様に届けてくださると思います。

8・9 月の学校より

6年夏の学校 ・5年男子サマースクール ・5年女子森の学校

夏の学校

6年生の夏の学校で、10月に行う1・6交流会に向けてグループごとに1年生と一緒に楽しめるユニバーサルスポーツを考えました。1年生の目線で考え準備する様子は、頼もしい最上級生の姿でした。



成長した合宿 (作文より抜粋)

5年生

ぼくはこの合宿で、自分で考えて行動することができました。

算数の問題は普段、図を使わずに解いていましたが、図を使って問題を解くことを意識しました。生活面では、もう5年生だから自分のことは自分ですることを意識して生活しました。しかし、図は上手くかけず、また、生活では先生に質問してしまったことが多くありました。ぼくはその夜、自分でどうしたら改善できるのかをたくさん考えました。すると次の日には前日より上手くなりました。このことから、自分で改善しようと考え、行動することが成長するための第一歩なのかなと思いました。

この合宿で一番楽しかったことはハイキングでした。だんだん山道が険しくなり、足が棒のようになり、(山頂は無理かな。)と思いましたが、友達に、

「一緒に頑張ろう。」

と言われたので、登り続けられました。山頂から見る景色は息をのむほど絶景でした。

学習面でも生活面でも成長し、すばらしい経験ができた合宿でした。



森の学校を通して (日記より抜粋)

5年生

この4日間で特に思い出に残ったのはキャンドルサービスです。なぜなら、みんなで心を合わせてお祈りをして、とても大事な時間だと感じたからです。

そして、3日目の時に雨のえいきょうで森のレストランができないとわかった時に、みんなが気持ちを切りかえてできることに一生けん命取り組むことができとてもよかったと思いました。

この森の学校は、今までの合宿とちがいで、相手のよいところや友達との信らいを確かめる合宿になったと思いました。この合宿をこれからの学校生活に活かしていけるようにしたいです。

音楽会

「ひとりからみんなへ 輝こう 響かせよう 音楽会」のテーマのもとに児童向け（9月19日）、保護者向け（9月21日）の音楽会が実施されました。音楽の授業や、休み時間を使って練習した成果を発表し、それぞれの学年の成長や、みんなで協力してつくる音楽の喜びを存分に発揮することができたひとときでした。



音楽会を終えて

4年生

今日は楽しみにしていた音楽会がありました。4年生が歌う曲は「パルマ」と「With You Smile」と「エーデルワイス」です。この3曲を今まで何度も練習してきました。

その中でも今までで一番練習した曲は「パルマ」です。なぜなら、この曲のリズムを、セコとバホを合わせてたたくことが難しいからです。また、4年生は学校の代表としてカトリック音楽会にも出ます。カトリック音楽会は今回の音楽会と同じ曲をえんそうします。小学校生活の中で一度しかないのも、頑張る気持ちがわいてきました。

本番当日、ぼくはワクワクしていました。なぜなら、コロナのえいきょうで保護者向け音楽会が開かれていなかったからです。そして、反対にきんちょうする気持ちも持っていました。

ぼくの中で一番力めたことは、6年生の音楽でした。なぜなら、大はく力のえんそうといろいろな楽器の音色が合わさってとてもすてきだったからです。また、6年生は笑顔でえんそうしていたので、ぼくも元気が出ました。

ぼくは今回の音楽会で、大きな行事はいろいろな人たちのささえがあつてできていること、そして、どんな行事でも笑顔で元気にとりくむことの大切さを学びました。ぼくはP.A.M.に所属しています。10月はロザリオの集いです。ぼくはP.A.M.会員として、元気に活動をして、集いを成功させたいと思います。

ジュニア・オーケストラクラブ

6年生

僕はこの音楽会を通して感じたことが2つあります。それは新しく入部した4年生の成長とオーケストラ全体の思いやりの心です。

4年生は入部してから半年という短い期間の中で、楽器を初めて触り一緒に演奏できるようになりました。そんな4年生と上級生一人ひとりが、みんなで音を合わせようと周りの人のことを思いやって演奏することができました。責任をもって演奏できたことに達成感を感じました。また、この努力の成果を全校児童と保護者の方々に聴いていただくことができ、オーケストラクラブのことを知ってもらえたことが嬉しかったです。

これからも思いやりの心をもったオーケストラの部員として、頑張りたいと思います。



聖歌隊として迎えた音楽会

6年生

今年の音楽会は、児童向けと保護者向けの2回歌うことができました。コロナ禍では音楽会を行うことすらできず、卒業していかれた先輩方もいました。こうして音楽会ができたことに感謝の気持ちがあふれました。また、私たちの演奏を聴いてくださる方々の心に残るように声と心を合わせてハーモニーを作りました。4~6年生の歌が好きな人たちが集まった聖歌隊は、「いのち」と「パニスアンジェリクス」を歌いました。3部合唱なのでお互いの声を聴きあい、一つひとつの歌詞にこめられた思いを表せるように頑張りました。これからもみんなで音楽を楽しみながら奏でていきたいです。



ドキドキしたはじめての音楽会

1年生

初めての音楽会だったけれど、舞台にのったら、(こんなにたくさん人がいたんだ。)ってびっくりしました。みんなのお母さん、お父さんがいる中でがんばった成果が出せてよかったです。(A組)

ちょっと緊張したけど、忙しい中来てくれたお母さん、お父さんの前で歌うことができ嬉しかったです。みんなとちゃんと元気いっぱい歌えてよかったです。他の学年の歌や演奏も聴くことができ楽しかったです。(B組)

初めての音楽会は、ドキドキしたけれど楽しかったです。不安なこともあったけれど、みんなと一緒に練習したのでがんばることができました。オーケストラの演奏では、知っている曲が聴けて嬉しくなりました。(C組)

音楽会を終えて

6年生

小学校最後の音楽会が、先週土曜日行われました。ふり返ってみると、コロナで中止になったり、子ども達だけの音楽会だったり、しかも昨年ぼくは体調をくずして欠席したので、本当に久しぶりの充実した音楽会だったなと感じられました。そして、これが最後の音楽会だと思うと、少しさびしい気持ちもありました。

ぼくの担当の楽器は、キーボードでした。夏休みの間は、なかなか楽譜を覚えられなくて苦戦していました。学校が始まってからは、毎朝練習をするうちに徐々にできるようになってきて、みんなと心一つにして音を合わせることの大切さを改めて学びました。

まず、子ども達だけの音楽会が先にありました。少しテンポが速くなってしまったところもあったけれど、自分達なりにできていたと思えました。他の学年の子達の歌や演奏も初めてじっくり聞いて、自分達ももっと頑張ろうと刺激を受けました。

そして、保護者向けの音楽会の日には心臓バクバクでちょっと心配でした。だけど、「地球星歌」を歌い出して少したった時に客席を見ると、お母さんたちがハンカチを出して泣いているのが見えて、自分達の歌声がしっかり届いたのだな、と安心しました。

あとでお母さんに「どうだった。」と聞くと、「泣けたよ。がんばったんだなって立っているだけで分かったから。あなただけじゃなく、6年生のみんなの成長が見られて、とてもうれしかった。」と言ってもらえました。とても心に残る音楽会でした。



ありがとう

ウィーク

ありがとうウィークをうけ、クラスごとにも「ありがとう」の気持ちを大切に作る取り組みを行いました。あるクラスでは、お世話になっている先生方へお手紙を書き、折り紙のプレゼントと共に届けに行く活動を行いました。先生方からいただいた「お手紙ありがとう」の言葉に、感謝の言葉はうれしい気持ちをどんどん広げていく素敵な言葉だと、改めて実感することができていました。学校行事を通して子ども達の心の成長も見守っていききたいと思います。

「ありがとう」の思いをのせて

6年生

10月2日の感謝の日の集いの前に、ありがとうウィークが行われました。私は、ありがとうウィークを通して、自分たちが毎日の生活の中で本当にたくさんの方々を支えていただいていることに気が付きました。

児童会では、「ありがとうの木」を企画し、日頃、心に感じている気持ちを実際に言葉にして相手に直接伝える機会を作れるよう考えました。「ありがとう」と言葉にして伝えた分だけ、木の幹に葉をはり、それぞれのクラスで、大きな「ありがとうの木」を育てました。

また、学校生活や身の周りでお世話になっている方々へ、全校児童で感謝の気持ちをこめてお手紙を書き、わたしました。

このありがとうウィークの取り組みを通し、私たちの学校が「ありがとう」があふれる場所となったらうれしいです。